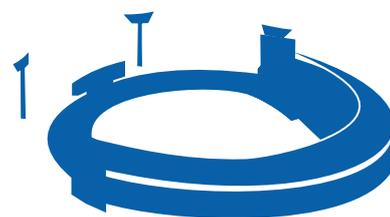
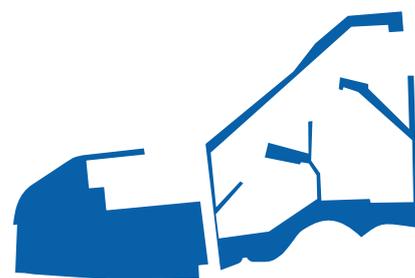
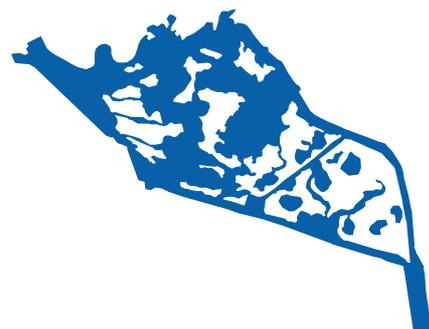
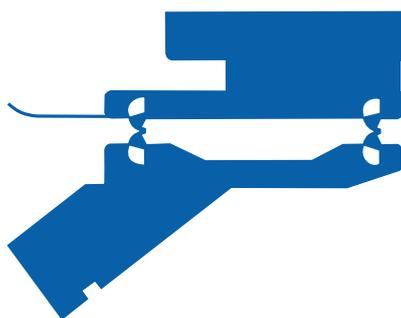


新潟地域振興局 地域整備部 のしごと

Outline of Niigata Regional Development Department



代表的な施設

The main public facilities



NIIGATA
PREFECTURE



業務の紹介

課・係名		主な業務
庶務課	庶務係 庶務担当	人事、公印、文書及び会計
	庶務係 建設業担当	入札、契約の事務
	行政係	公共物(河川、海岸、砂防)の法的管理 境界立会
用地課		用地買収、物件補償 買収用地の登記 「用地補償相談窓口」業務
計画調整課		公共施設整備計画の企画・立案 新規事業計画の策定 地域整備部の広報
治水課		河川、海岸、砂防、漁港の工事及び維持管理 水防計画策定
	管理係 (福島潟分室)	福島潟放水路の水位の維持管理
都市整備課		鳥屋野潟公園の整備・維持管理 島見緑地の維持管理
建築課 ※五泉市、阿賀町を所管		建築基準法の事務 建築士法、宅地建物取引業法の事務(新潟市含む) その他建築関係法令の事務
機場管理課 (山の下閘門排水機場)		施設管理(山の下閘門排水機場、津島屋閘門排水機場、 竹尾揚水機場、新井郷川閘門)
土木部技術管理課 土木工事検査監		土木工事の完成検査 技術研修

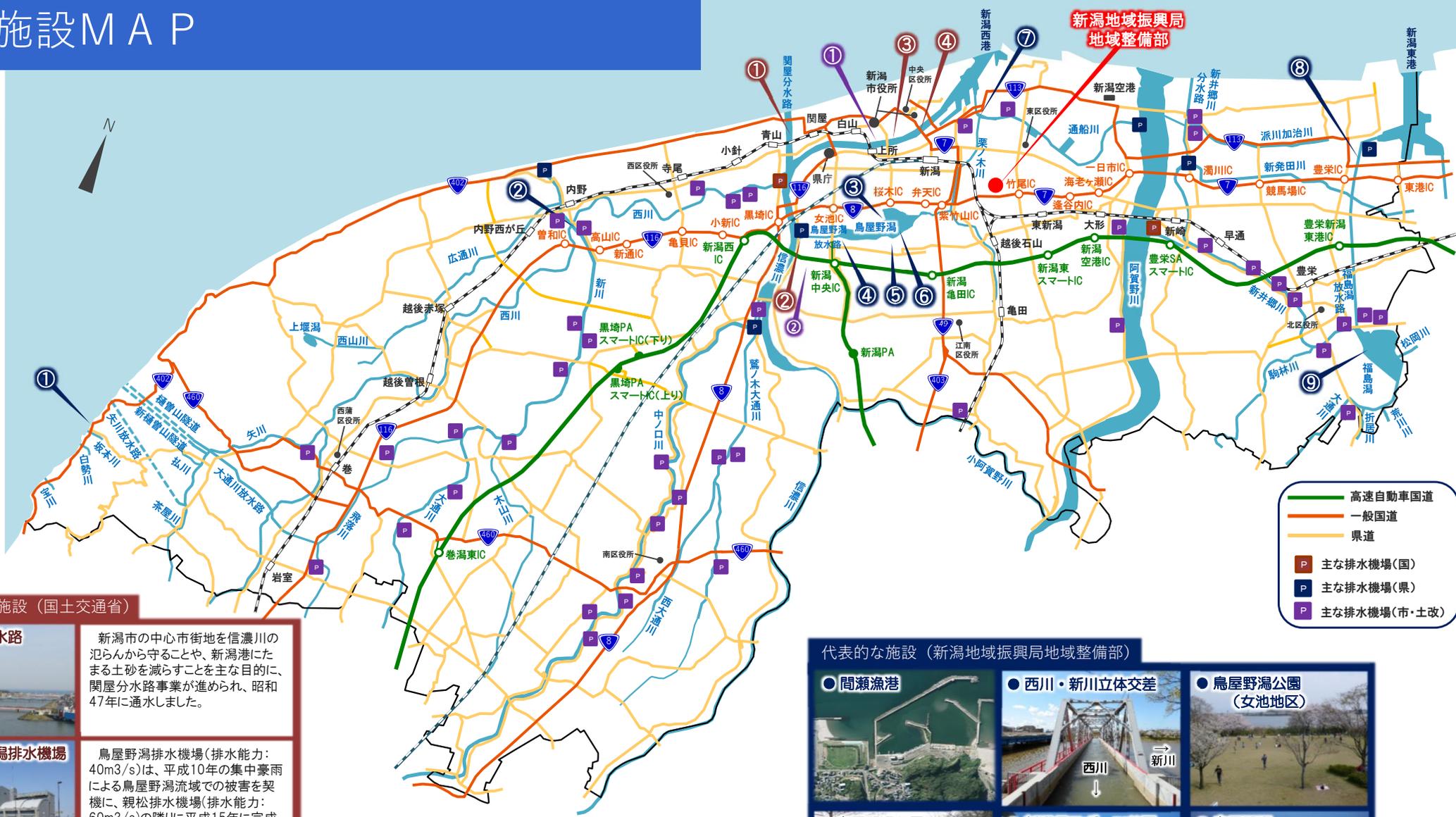


新潟県新潟地域振興局地域整備部

〒950-8716

新潟市東区竹尾2丁目2番80号 新潟地域振興局竹尾庁舎2階

TEL 025-273-3201 FAX 025-275-8711



新潟地域振興局
地域整備部

代表的な施設（国土交通省）

- 関屋分水路**
 新潟市の中心市街地を信濃川の氾らんから守ることや、新潟港にたまる土砂を減らすことを主な目的に、関屋分水路事業が進められ、昭和47年に通水しました。
- 鳥屋野潟排水機場**
 鳥屋野潟排水機場（排水能力：40m³/s）は、平成10年の集中豪雨による鳥屋野潟流域での被害を契機に、親松排水機場（排水能力：60m³/s）の隣りに平成15年に完成しました。
- やすらぎ堤**
 信濃川の「やすらぎ堤」は、全国初の5割勾配の緩傾斜堤防で、新潟市による「やすらぎ堤緑地」などの周辺整備と連携し、「水都にいがた」のシンボリックな空間として、昭和62年度から整備が進められています。
- 萬代橋**
 現在の萬代橋は三代目、昭和4年に架橋されました。美しさ、風格、強さを合わせもつ萬代橋は、新潟市のシンボルとして親しまれています。平成16年に国の重要文化財に指定されました。

代表的な施設（新潟市）

- 白山公園**
 白山公園は、明治6年の太政官布告により日本で最初に開設された25箇所の都市公園の一つです。平成10年には公園区域が拡大され、文化施設を取り巻くように、6つの空中庭園と回廊が整備されました。
- 信濃川浄水場**
 信濃川浄水場は、新潟市の基幹浄水場として平成17年に稼働を始めた浄水場です。高さ53m、直径26mという大型の高架配水塔により自然流下による安定供給を可能としています。

代表的な施設（新潟地域振興局地域整備部）

- 間瀬瀨港**
- 西川・新川立体交差**
- 鳥屋野潟公園（女池地区）**
- 鳥屋野潟公園（鐘木地区）**
- 新潟県スポーツ公園**
- 鳥屋野潟**
- 山の下閘門排水機場**
- 福島潟放水路**
- 福島潟**

管内の概況

新潟地域振興局地域整備部は、政令指定都市新潟市のうち秋葉区を除いた面積631km²(県全体の約5%)、人口約70万人(県全体の約33%)を有する区域を所管しています(令和5年4月1日現在 新潟県人口移動調査)。

地形的には、角田山周辺の山地以外は、海岸砂丘とその内陸側に広がる越後平野からなり、平野部には、鳥屋野潟、福島潟や旧鎧潟周辺に低平地が広がり、海拔ゼロメートル地帯は国内屈指の約180km²(新潟市全域の約1/4)にも及びます。

社会的には、新潟県の経済活動の中心地であり、多くの都市施設が集積しているほか、高速道路(3路線)、上越新幹線、新潟港(日本海側唯一の中核国際港湾)、新潟空港など、本州日本海側有数の交通、物

流の要衝となっています。これらのインフラは、東日本大震災において被災地支援や救援の拠点となるなど、その重要性について再認識されたところです。

また、市街地に隣接する周辺農用地は高度利用化の需要が高く、都市化現象が顕著ですが、平坦で積雪量の少ない地勢を生かした農業は、稲作はもとより、野菜、果樹、花きなどの園芸栽培も盛んで、全国トップクラスの生産量を誇っています。

このような地域条件の中、当地域整備部では、豪雨、風浪などの自然災害を防止し、市街地と農地を守り、安全・安心に暮らせる地域づくりを推進するとともに、市街地においては鳥屋野潟公園を中心とした県民の憩いの場づくりも進めています。

管内の施設

(令和7年3月31日現在)

■ 河川

区分	河川数	延長(km)
一級河川(国管理)	3	—
一級河川(県管理)	25	176.8
二級河川	10	62.3
計	38	239.1

■ 都市公園

名称	計画面積(ha)	供用面積(ha)
鳥屋野潟公園	287.4	88.5
島見緑地	16.1	16.1
計	303.5	104.6

■ 砂防

区分	箇所数	面積(ha)	延長(m)
砂防指定地	11	61.49	10,286
急傾斜地崩壊危険区域	7	9.35	—

■ 海岸

名称	延長(m)
新潟海岸 寄居浜・関屋地区海岸(直轄施行区域)	2,872
新潟海岸 青山地区海岸(一部・直轄施行区域)	7,884
新潟海岸 内野浜地区海岸	2,649
巻海岸 角田・越前・四ツ郷屋地区海岸	9,156
巻海岸 五ヶ浜・角田地区海岸	2,710
岩室海岸 下山地区海岸	174
岩室海岸 間瀬地区海岸	2,041
計	27,486

中央区

北は日本海、中央には信濃川、東に栗ノ木川、西に関屋分水路、南に鳥屋野潟という豊かな水辺に恵まれた中央区。さまざまな都市機能が集積する一方で、国の重要文化財に指定された萬代橋や、みなとまちの伝統文化を感じるまち並みも存在しています。

西区

西区は、都市と農村が共生する潤いの居住環境にあり、優れた学術環境と豊かな自然に育まれる人と環境に優しいまちです。特に日本海を望む「夕日ライン」の眺望は美しく、毎年夏季には多くの海水浴客で賑わいます。

西蒲区

西蒲区は、角田山・多宝山や越後七浦海岸などの豊かな自然観光資源に恵まれ、また、新潟市で1位の広さを誇る農地(田んぼ)を有し、「はざ並木」も残る美しい田園風景が広がるまちです。



南区

信濃川と中ノ口川、両河川の恵みによって育まれた水辺のまち、南区。肥沃な農地からは米・野菜・果物などが生産され、四季の花々が彩る美しい景観があります。また、初夏の風物詩白根大風合戦など、多くの観光資源に恵まれています。

江南区

江南区は6つの区と境界を接し、都市機能と交通の利便性を活かした交流の拠点と水と緑に囲まれた豊かな大地とが調和した安らぎのあるまちを形成しています。

秋葉区

秋葉区は「花と緑に囲まれた、快適でにぎわいのあるまち」を区の将来像として設定し、田園や丘陵に囲まれた豊かな自然環境を活かしたまちづくりを進めています。

東区

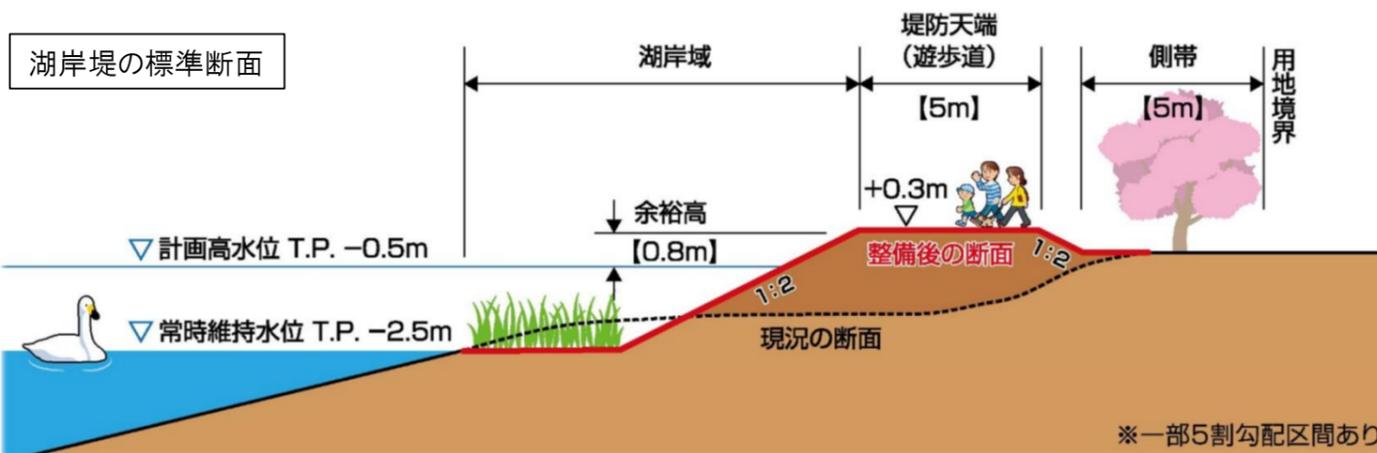
東区は、日本海と日本を代表する信濃川や阿賀野川、さらには、通船川、栗ノ木川など豊かな水辺に恵まれる一方で、新潟空港や新潟西港など、空と海の玄関口でもあるまちです。

北区

北区は、見渡す限り広がる田園風景、巨大な葉を広げる福島潟のオニバス、海岸沿いに続く松林やニセアカシア並木、高森の大ケヤキなど、豊かな自然に恵まれています。

■ 鳥屋野潟

水都にいがたのシンボルである鳥屋野潟は、流域の大半が海拔ゼロメートル地帯です。昭和53年の水害を契機に治水対策に取り組んでおり、現在は湖岸堤の整備(延長6.4km)を進めているところです。整備の目標:50年に1回程度発生する規模の降雨に対する浸水被害の解消



- 治水、環境保全、利活用の観点で県民の関心が非常に高く、学識経験者や関係団体の代表で構成される委員会や地域住民等との意見交換を行い計画を策定しています。



■ 福島潟

福島潟を含む新井郷川流域では、昭和42年の羽越水害を契機に治水対策に取り組んでおり、福島潟では現在、湖岸堤の整備(延長9.4km)を進めているところです。整備の目標:30年に1回程度発生する規模の降雨に対する浸水被害の解消



- 潟外への浸水を防止するため湖岸堤の整備を進めています。
- 洪水を福島潟放水路へスムーズに流下させるため、福島潟水門の整備を進めています。



- 福島潟は、日本でも有数の野鳥の楽園であり、国の天然記念物であるオオヒシクイの渡来数は5,000羽以上と日本一を誇ります。また、日本の水生植物の中で一番大きなオニバスの北限自生地にもなっています。このため、潟内の動植物や周辺環境との調和を図りながら整備に取り組んでいます。



■ 中ノ口川

中ノ口川は、燕市道金で信濃川より分派し、新潟平野を貫流して新潟市西区善久で再び信濃川下流に合流する流路延長約32kmの一級河川です(事業延長21.8km)。

整備の目標: 信濃川本川と同規模である150年に1回程度発生する規模の降雨に対する浸水被害の解消



● 河積阻害解消に向けて塩俵橋の架替えを実施しています。



● 堤防の嵩上や堤防の厚さの確保などの対策工事を進めています。



月の輪工(水防工法)による漏水対応



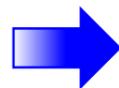
平成23年7月出水

■ 通船川・栗ノ木川 護岸老朽化対策

新潟地震後に建設され、老朽化した矢板護岸について、修復や更新を行っています。



Before



After

■ 河川の利用

河川は、自然豊かな憩いの場として、多くの人々が水遊び・魚釣り・散歩等を楽しめる空間となっています。河川は公共のものなので、基本的に誰もが自由に利用することができますが、なんでも自由に利用できるということではありません。許可なく河川を汚したり、破壊したり、また、他の利用者の迷惑となる行為は、河川法やその他の法律により禁止または制限されています。

河川を利用するときは、他の河川利用者や付近住民に迷惑・危険を及ぼさないように、みなさんで気持ちよく利用していただくようお願いします。

憩いの場として利用



課外授業を受ける小学生



■ 河川の維持管理

河川としての機能を確保するためや、河川を安全かつ快適に利用できるように、堤防点検の実施や、堤防の変状等が確認できるように除草を行うなど、河川の管理を行っています。特に矢板護岸は新潟管内の護岸の半数以上(県管理河川全体の3分の1以上)におよび、経年劣化による腐食、河床低下による傾斜が散見されていますが、緊急度、優先度を考慮しながら、予算の範囲内で対応しています。また、西川水路橋などの重要な河川管理施設については、長寿命化計画を策定し、適切な点検や補修を行っています。

● 西川・新川立体交差
低平地の排水のため、江戸時代に人工的に掘られた新川と、元からあった西川が立体交差しています。現在の施設は三代目で水路橋となり、新川の上を西川が流れています。



日常的な河川パトロール



堤防の除草



川と川の立体交差

■ 河川情報の提供

県内の河川水位や雨量などの情報を、県のインターネットサイト「土木防災情報システム」を通じて、観測データをリアルタイムで公開しています。

情報取得方法として、パソコン版と携帯端末版(スマートフォンサイト、従来型携帯サイト)の3つがあります。

パソコンからは

新潟県河川防災情報



携帯電話からは



スマートフォンからは



■ 山の下閘門排水機場

海拔ゼロメートル地帯が広がる東新潟地域を流れている通船川や栗ノ木川流域では、昭和39年の新潟地震により甚大な浸水被害がありました。災害復旧にあたっては、被災地域の発展と災害の再発防止の観点から、それまでの「築堤方式」ではなく、河川水位を人工的に下げる「低水路方式」を採用し、山の下閘門排水機場と津島屋閘門排水機場の整備を行い、昭和42年から運用しています。

その後、平成10年の水害を受け、平成15年に新排水機場の増設が完了し、排水機場の能力は21.6m³/sから51.6m³/sへ増強され、現在の姿となっています。



- 排水機場では、排水ポンプを常時運転し、通船川を信濃川より約2m低い水位に保つとともに、水位差のある河川の間を船舶が通航できるよう併設した、閘門の開閉を行っています。



排水ポンプ



閘門の開閉

- かつて閘門は、新潟西港から通船川の中流にある県営貯木場へ輸入木材を運ぶ、曳き船(ひきぶね)と筏(いかだ)が通航していました。



通航する曳き船と筏

詳しくは

山の下閘門排水機場



- 排水機場は新潟市の東区と中央区の境界に位置し、敷地内には境界標と境界の路面標示があります。



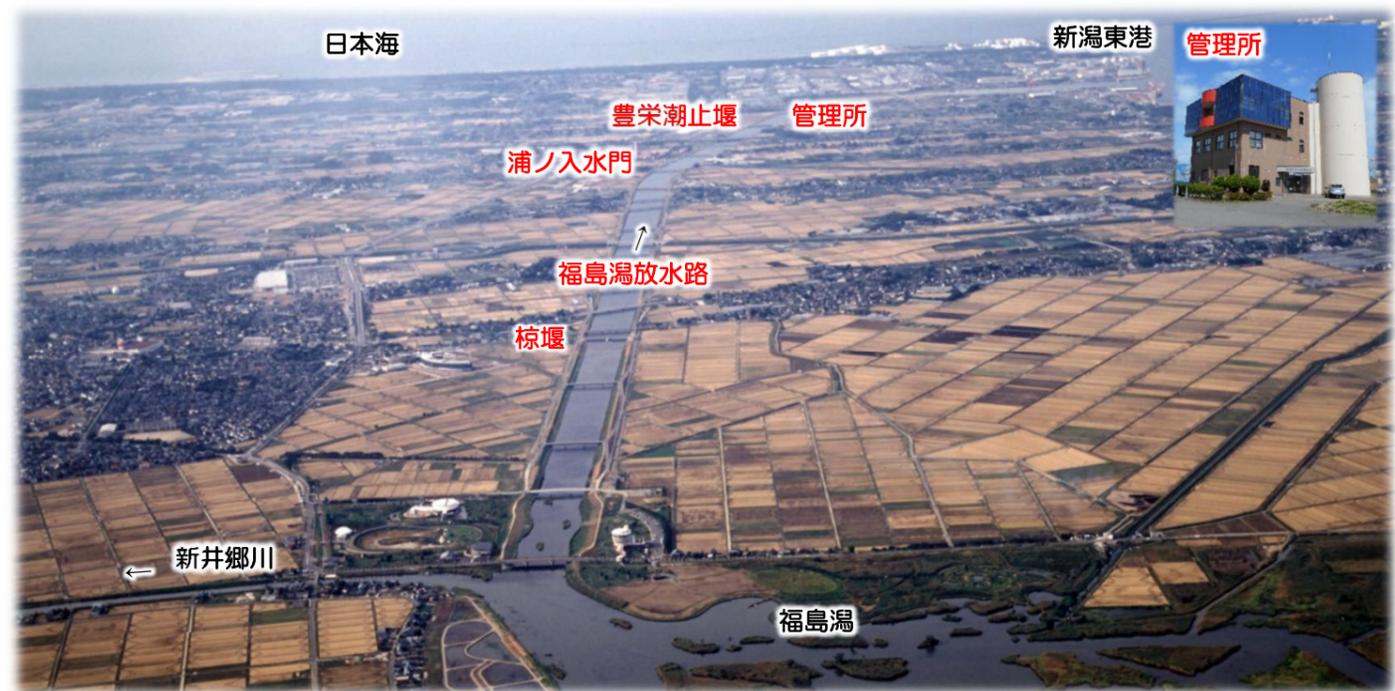
境界標と境界の路面標示

■ 福島潟放水路

福島潟放水路は、福島潟の水位が高くなったときに洪水を福島潟から分水し、新潟東港を経由して日本海に放流するために開削した、幅約100m、長さ約6.7kmの河川で、平成15年に完成・通水しました。

放水路沿川の地下水水位低下による井戸枯れを防ぐために、通常時は水位を+0.7mに保つ必要があります。

このため、下流部には海水の遡上を防ぐための堰(豊栄潮止堰)を、上流部には福島潟への逆流を防ぐための堰(椋堰)を設置し、水位調節は放水路と交差している新発田川の下流の水門(浦ノ入水門)を操作して行なっています。潟の水位が高くなったときは、豊栄潮止堰を倒伏させて放水路内の水位を下げ、椋堰を倒伏させて洪水を流します。



● 施設見学

様々な団体の見学を事前申込みにより受付しています。



山の下閘門排水機場



福島潟放水路

詳しくは

山の下閘門排水機場
福島潟放水路

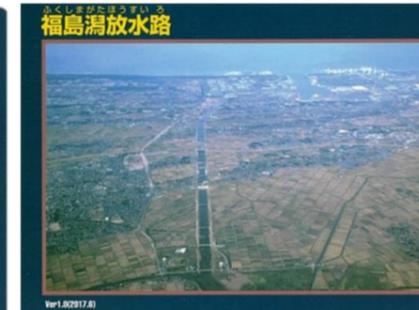


● 施設カード

「施設の役割」や「ひとこと自慢」などの情報を記載した『施設カード』をそれぞれの管理棟で配布しています。



山の下閘門排水機場



福島潟放水路

詳しくは

新潟県 施設カード



■ 砂防事業 ～ 権吉川 ～

権吉川下流には、新潟を代表する温泉地である岩室温泉街があり、年間を通じて多くの観光客が訪れています。このため、既存ダムの改良工事を行い、より安全度の向上を図りました。



改良前



改良後

■ 急傾斜地崩壊対策事業 ～ 間瀬一区・本村 ～

間瀬一区・本村は、かつて間瀬石の切場として発展した歴史深い集落で、斜面近くまで住宅があります。このため、斜面を崩れにくくするコンクリート枠を設置し、環境に配慮しながら、安心安全な地域となるように整備を進めました。現在は間瀬四区地区で事業を進めています。



整備前



整備完了

土砂災害の前ぶれを知ろう

土石流の前ぶれ



「山鳴り」といって山全体がうなっているような音がする時
川の流れが濁ったり、流木が混じっている時
雨が続けているのに、川の水が減っている時

がけ崩れの前ぶれ



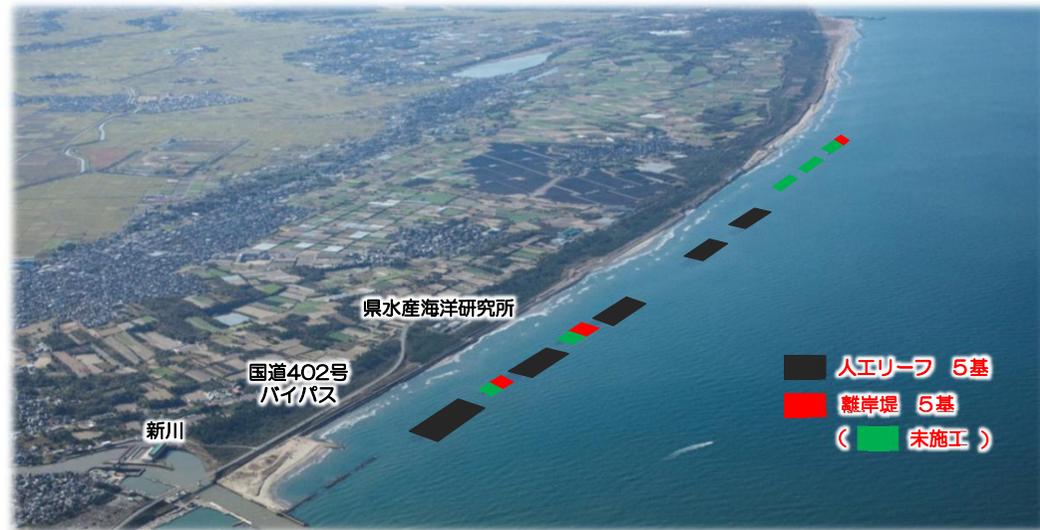
がけから小石がパラパラと落ちてきた時
がけに割れ目が見えた時
がけから水がわき出してきた時

資料提供 NPO法人 土砂災害防止広報センター

● 知っていますか？「砂防」は外国でも『SABO』といわれており、世界共通語です。

■ 海岸侵食対策事業 ～ 内野浜・四ツ郷屋地区海岸 ～

海岸侵食が著しい内野浜・四ツ郷屋地区海岸では、侵食対策として人工リーフ5基(内野浜)と離岸堤5基(内野浜2基、四ツ郷屋3基)を計画して、事業を進めています。



漁 港

漁業発展のために

■ 間瀬漁港

第2種漁港である間瀬漁港は新潟県が管理しています。漁港の歴史は古く、江戸時代中期よりイワシ漁を中心に栄え、現在は底引き網漁を中心にヒラメやカレイ、たこ類をはじめ、多くの魚を水揚げしており、地域経済を支えています。



漁港の防波堤などでの魚釣りは、急な高波などで海への転落事故につながり、大変危険です。
県では、生命・安全の確保が重要と考え、立入禁止としています。
ルールとマナーを守り、安全な場所で魚釣りを楽しんでいただくよう、皆様のご理解とご協力をお願いします。

■ 鳥屋野潟公園

鳥屋野潟は、県都新潟に残された貴重な自然であり、古くから県民の憩いの場として親しまれてきました。この貴重な鳥屋野潟を急激な都市化から守り、より広く県民に親しんでもらうために、「森と水」をテーマとし、県内初の県立都市公園として整備に着手しました。ピーク時には約300万人(推計値、平成24年)に来園いただいています。

現在までに「鐘木地区」、「女池地区」、「スポーツ公園」合わせて約88haが開園しており、最終的には潟部分も含めて287.4haの公園となる予定です。



● 鐘木地区

水の流れる音が心地よい「せせらぎ」、季節ごとに趣きを変える「日本庭園」。数多くの品種のユキツバキを観覧できる「ユキツバキ園」。鐘木地区は、自由にパフォーマンスができるメイン広場など多くの施設があり、来園される方々は充実した時間をお過ごしいただけます。



● 女池地区

鳥屋野潟を一望できる「展望台」や、湖畔を取り囲む「桜並木」。様々な植物に囲まれながら、ゆっくりと散策を楽しむ「しらべの小径」。女池地区は、来園される方々に自然の楽しみと安らぎを感じていただけるような、ゆったりとした公園です。



● スポーツ公園

国体・各種国際級の大会の開催はもちろん、市民・競技選手を含めた幅広い層の利用を図り、雪国の風土を意識したスポーツ公園です。

多目的運動広場等の運動施設やカナル等の修景施設、自然生態園等の学習施設も整備されており、スポーツや自然学習などを楽しむことができます。



デンカビッグスワンスタジアム DENKA BIG SWAN STADIUM

日本海側最大級の規模と機能を持つデンカビッグスワンスタジアムは、国際級のスポーツイベントを開催できる総合スタジアムで、収容人数約4万2千人です。その機能は高く評価され、世界中が注目した2002FIFAワールドカップの日本国内の開幕戦会場となりました。

第1種公認陸上競技場も併せ持ち、併設施設の「新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター」とともに、「新潟県スポーツ公園」の中心施設となっています。

各種スポーツやビッグイベントを通じた情報発信の基地として、また人々のコミュニケーションの場として、安全で快適なスポーツ空間を提供しています。



詳しくは

デンカビッグスワン



HARD・OFF ECOスタジアム新潟

グラウンド両翼100m、センター122m、収容人数約3万人。HARD OFF ECOスタジアム新潟は、緑広がるスポーツ公園内にある、プロ野球も開催できる本格的な野球場です。広々とした屋内練習場、プレーヤーやコーチスタッフをサポートする施設、ナイター照明や大型映像装置付きスコアボードを備えた、ハイグレードなベースボールスタジアムです。

隣接する「デンカビッグスワンスタジアム」と共に、新潟県のスポーツスタジアムの中心施設として、多くの県民が気軽に利用でき、地域に愛される感動拠点を目指します。

外野芝生広場



屋内練習場

詳しくは

エコスタ



AIRMAN スケートパーク

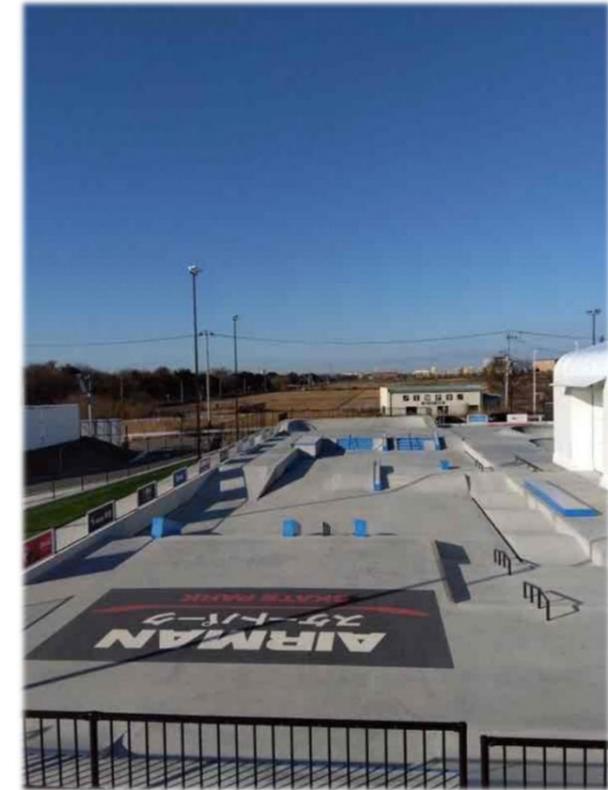
AIRMANスケートパークは、滑走面積約2,000平方メートル（うち屋内エリア約450平方メートル）、管理棟（トイレ、休憩スペース等）、ナイター照明（夜間利用可）を持つ初級者から中級者向けのスケートパークです。

未経験者や愛好家から、競技者を目指すスポーツ志向のスケーターまで皆が楽しみ、また来たいと思えるスケートパークを目指します。



詳しくは

AIRMAN
スケートパーク



■ 島見緑地

新潟市北区島見町地内にある島見緑地は、1993年に東港工業地帯の新潟市側の緩衝緑地として整備された広大な公園です。

複合遊具で遊んだり、大きな芝生公園で球技スポーツを楽しんだりできます。2012年にオープンしたドッグランは、愛犬家の皆様にとっても人気があります。



ドッグラン



わんぱく広場



デンカビッグスワンスタジアム (2001年完成)

DENKA BIG SWAN STADIUM

日本海側最大級の規模と機能を持つデンカビッグスワンスタジアムは、国際級のスポーツイベントを開催できる総合スタジアムで、収容人数約4万2千人です。その機能は高く評価され、世界中が注目した2002FIFAワールドカップの日本国内の開幕戦会場となりました。

第1種公認陸上競技場も併せ持ち、併設施設の「新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター」とともに、「新潟県スポーツ公園」の中心施設となっています。

各種スポーツやビッグイベントを通じた情報発信の基地として、また人々のコミュニケーションの場として、安全で快適なスポーツ空間を提供しています。



詳しくは

デンカビッグスワン



HARD・OFF ECOスタジアム新潟 (2009年完成)

グラウンド両翼100m、センター122m、収容人数約3万人。HARD OFF ECOスタジアム新潟は、緑広がるスポーツ公園内にある、プロ野球も開催できる本格的な野球場です。広々とした屋内練習場、プレーヤーやコーチスタッフをサポートする施設、ナイター照明や大型映像装置付きスコアボードを備えた、ハイグレードなベースボールスタジアムです。

隣接する「デンカビッグスワンスタジアム」と共に、新潟県のスポーツスタジアムの中心施設として、多くの県民が気軽に利用でき、地域に愛される感動拠点を目指します。

外野芝生広場



屋内練習場

詳しくは

エコスタ



AIRMAN スケートパーク (2023年完成)

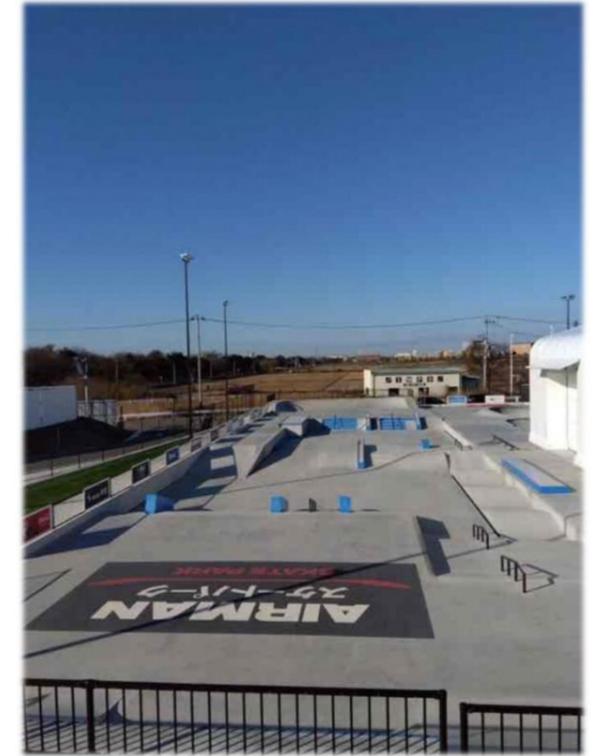
AIRMANスケートパークは、滑走面積約2,000平方メートル(うち屋内エリア約450平方メートル)、管理棟(トイレ、休憩スペース等)、ナイター照明(夜間利用可)を持つ初級者から中級者向けのスケートパークです。

未経験者や愛好家から、競技者を目指すスポーツ志向のスケーターまで皆が楽しめ、また来たいと思えるスケートパークを目指します。



詳しくは

AIRMAN
スケートパーク



島見緑地

新潟市北区島見町地内にある島見緑地は、1993年に東港工業地帯の新潟市側の緩衝緑地として整備された広大な公園です。

複合遊具で遊んだり、大きな芝生公園で球技スポーツを楽しんだりできます。

2012年にオープンしたドッグランは、愛犬家の皆様にとっても人気があります。



ドッグラン



わんぱく広場





新潟地域整備部



スマートフォンからはこちら →



2026.3 発行 (Ver.3.5)